

# 拡翼式固化処理工法

拡翼式固化処理工法は、道路構造物や擁壁、橋台などの上部構造物への影響をできる限り少なくして、下部地盤の改良を行うことを目的とした固化処理工法です。

固化材注入ロッドの挿入に必要な最小限の削孔を行い、改良予定地盤内で大口径に拡翼して軟弱土とセメントスラリーを攪拌混合し、原位置で所定の強度に改良します。

## 特長

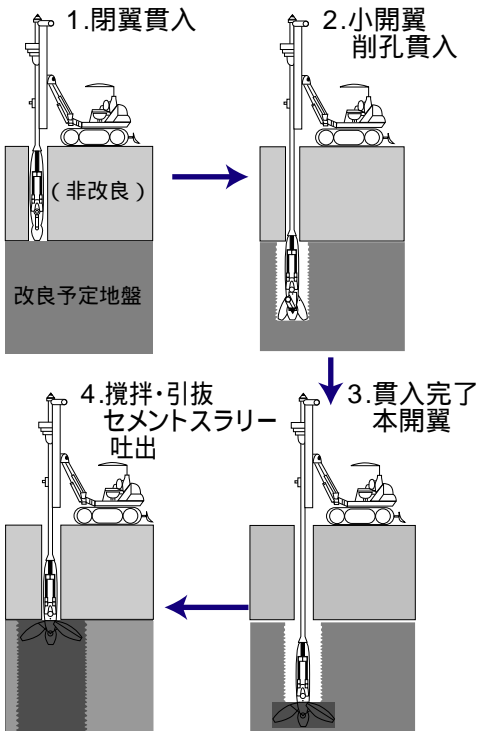
小口径のパイロット削孔( 200mm )で、大口径( 1,200mm )の改良体が得られます。

貫入時は小開翼で削孔するため、周辺地盤の変位を最小限に押さえることができます。

翼の開閉度合いにより、任意の改良範囲を設定できます。

施工機械の機動性が高く、斜め方向の施工も可能です。

### 施工手順



### 施工機械



処理機



開翼状態



改良状況

### 施工実績

工事名	工期	施工場所	目的	固化材配合量	現場強度
自主試験工事	99.3	栃木県	改良効果確認	50kg/m <sup>3</sup> 100kg/m <sup>3</sup> 180kg/m <sup>3</sup>	qu = 700KN/m <sup>2</sup> qu = 1280KN/m <sup>2</sup> qu = 1820KN/m <sup>2</sup>
自主試験工事	99.3	千葉県	改良効果確認	30 ~ 150kg/m <sup>3</sup>	—